

3. 日本海ホタテガイ採苗不振対策研究

担当者 調査研究部 桒原 康裕

(1) 目的

例年になく低温で推移した 2008 年の日本海沿岸では、ホタテ貝採苗が極めて悪かった。日本海のホタテ採苗に関する調査は水産指導所による各前浜におけるものに限られ、広域的な取り組みは遅れている。海洋環境と浮遊幼生、低水温と産卵生態および母貝集団の特定に関する試験調査を行い、実態を把握し原因究明と今後の対策策定を試みる。

網走水産試験場調査研究部では、ホタテガイの遺伝形質を利用し、採苗ホタテ稚貝親子関係を解明する。

(2) 経過の概要

調査は日本海沿岸の 9 海域、小樽、厚田、浜益、増毛、臼谷、鬼鹿、苫前、羽幌、遠別、から 2010 年の産卵に関与したと考えられる養殖貝および、養殖貝と親子関係にあると予想される 2010 年採苗貝を、各海域から 100 個体以上入手した。

得られた標本から FTA カード (GE ヘルスケア・ジャパン) による全ゲノム抽出を行った。

(3) 得られた結果

抽出した全ゲノムサンプルからの DNA シークエンスの決定及び親子関係推定は平成 23 年度に実施予定である。